

平成25年度入学生対象

平成25年2月22日

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部(学科)名〔教育学部第五類(人間形成基礎系)心理学系コース〕

プログラムの名称(和文)	心理学プログラム
(英文)	Psychology program
<p>1. プログラムの紹介と概要</p> <p>【どんな人材を育成しているか】</p> <p>より複雑になり、混迷している現代社会では、心に関連したさまざまな問題が生じている。心理学プログラムでは、そのような問題を解決できる人材を育成している。すなわち、心の仕組みや働きについてよく理解しており、心に関する問題を発見することができ、それを解決することのできる人材である。</p> <p>【何を身につけられるか】</p> <p>本プログラムでは、大きく分けて以下の2つを身につけることができるようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none">●心理学の広範な知識：認知・学習・社会・教育・発達・臨床心理学といった、心理学の主要な領域の知識を広範囲に得ることができる。●心理学の研究手法や技能：人間の心について理解するために必要なさまざまな方法・技能を修得できる。 <p>【プログラム修了後、何になれるか】</p> <ul style="list-style-type: none">●資格：日本心理学会に申請することにより「認定心理士」の資格を得ることができる。●進路：プログラム修了者は、国家・地方公務員、家庭裁判所調査官、福祉職、一般企業、高等学校教員など広範囲な領域で活躍している。また、大学院に進学してさらに研鑽を積み、大学や研究機関などで活動している修了者も多い。	
<p>2. プログラムの開始時期とプログラム選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等)</p> <ul style="list-style-type: none">●教育学部第五類心理学系コースに入学した学生は、原則として1セメスターから心理学プログラムを開始する。●他学部・他コースの学生が、転学部・転コースにより心理学プログラムへの参加を希望する場合の開始時期や参加するために満たさなければならない条件などは、別に定める。	
<p>3. プログラムの到達目標と成果</p> <p>(1) プログラムの到達目標</p> <ol style="list-style-type: none">1) 心の仕組みや働きを理解するために、多様な知識を身につける。 人間の認識や情報処理の仕組み、人間関係や社会の中で生きる人間、人間の学習や教育、心の成長のプロセス、心の悩みや適応への援助の仕方、脳や身体と心の関係などに関して、多様な知識を身につける。 知識を身につけるとともに、人間を自然科学、人文科学、社会科学など多方向から見つめる視点を得る。2) 人間の心について理解するための方法・技能を身につける。 心の測定法やデータの収集・分析などの方法、論理的に考え合理的に判断する能力を身につける。それにより、基礎的な研究活動を行うことができるようになる。3) 研究を実践する能力・技能を身につける。	

上に挙げた方法・技能を、研究活動として実践するための能力・技能を身につける。また、研究の過程や成果を表現したり、さまざまな他者と情報を交換したりするなど、意思の疎通を図るための能力を身につける。

4) 心に関連した問題を解決するための意欲と態度を形成する。

人間に関する知の蓄積に立脚し、事実に基づきながら新たな知を探求する意欲と態度を形成する。

(2) プログラムによる学習の成果（それぞれの学習方法を別紙1に示す）

【知識・理解】

1) 心の仕組みや働きに関する標準的知識

認知心理学領域の標準的知識

学習心理学領域の標準的知識

社会心理学領域の標準的知識

教育心理学領域の標準的知識

発達心理学領域の標準的知識

臨床心理学領域の標準的知識

その他、自然科学、人文科学、社会科学などに関する知識（教養教育）

2) 心の仕組みや働きに関する発展的知識

認知心理学領域の発展的知識

学習心理学領域の発展的知識

社会心理学領域の発展的知識

教育心理学領域の発展的知識

発達心理学領域の発展的知識

臨床心理学領域の発展的知識

その他、各学問領域における研究の最前線、文化・社会との関わりなどに関する知識（教養教育）

【知的能力・技能】

1) 文献や資料を理解し、批判的に評価する基本的能力・技能

内容を正確に理解する基本的能力・技能（教養教育の外国語を含む）

内容を批判的に評価する基本的能力・技能

2) 科学的な研究方法の理解、及び研究を実施するために必要な基本的能力・技能

科学的方法の特徴の理解

心理学的測定に関する基本的能力・技能

心理統計法に関する基本的能力・技能

心理実験法に関する基本的能力・技能

心理社会調査法に関する基本的能力・技能

心理検査法に関する基本的能力・技能

その他、情報活用などの基本的能力・技能（教養教育）

【実践的能力・技能】

1) 研究課題を発見し、適切な研究計画を立案する能力・技能

2) 研究課題について、適切な資料・データを収集し、分析・要約する能力・技能

実験法，調査法，検査法に基づいて資料・データを収集する能力・技能
記述統計，推測統計の基本的手法を，収集した資料に適用する能力・技能

- 3) 研究の過程と成果を表現したり評価したりする能力・技能
研究の過程と成果を，口頭および論文で公表する能力・技能
自分や他者の発表を批判的に評価する能力・技能

【総合的能力・技能】

- 1) 心の仕組みや働きに関して探求するための能力・技能
2) 現代社会における心に関わる問題に真摯に取り組む態度

4. 教育内容・構造と実施体制

(1) 学位の概要 (学位の種類，必要な単位数)

学士 (心理学)

128 単位	教養教育 46 単位		
	専門教育 74 単位	専門基礎科目	18 単位
		専門科目	25 単位
		専門選択科目	25 単位
		卒業論文	6 単位
	教養と専門のどちらでもよい科目		8 単位

(2) 得られる資格等

- 日本心理学会に申請することにより「認定心理士」の資格を得ることができる。
- 教育職員免許法に基づいて教職関係科目 (教職に関する科目および教科に関する科目) を併せて修得することにより，教員免許 (例：高等学校教諭一種免許 (公民) など) を取得することができる。

(3) プログラムの構造

教養教育・専門教育における各科目間の関係を，別紙2に図示する。

【教養教育】

心理学の専門教育に進む準備として，人や社会を多様な視点から見ることができる基盤的な知識と外国語や情報活用能力等の知的スキルの獲得をめざす。

1) 領域科目，パッケージ科目など

人間の心を理解するための前提として自然科学，人文科学，社会科学などの知識を獲得する。また，心理学の概論的知識を得るために，領域科目のうち，「心理学 A」「心理学 B」は必修科目であり，「心と行動の科学」を履修することが望ましい。

2) 外国語科目，情報科目など

外国語の能力や情報活用能力などの知的スキルを習得する。

【専門教育】

1) 心の仕組みや働きを理解するために，多様な知識を身につける専門科目

・領域概論 (2 年次) : 「認知心理学」「学習心理学」「社会心理学」「教育心理学」「発達心理学」「臨床心理学」がある。

・領域特論（主として3年次）：「知覚心理学」「対人心理学」「児童・青年期発達論」「乳幼児心理学」「心理療法論」「教育相談」「精神医学」「生徒・進路指導論」がある。

2) 人間の心について理解するための方法・技能を身につける専門基礎科目

・講義科目（主として2年次）：「心理統計法Ⅰ・Ⅱ」「心理実験法」「心理社会調査法」「心理検査法Ⅰ・Ⅱ」がある。

・演習・実習科目：1年次の「基礎実習Ⅰ・Ⅱ」で、心理学の研究を体験し、基礎的な方法を身につける。

2年次の「外書講読演習」で、研究の計画や実施に必要な情報（英語で提供されることが多い）の収集や分析を行う能力を身につける。

3) 研究を実践する能力・技能を身につける専門科目

3年次の課題演習、3-4年次の課題研究といった研究法科目、および卒業論文で、研究を実践する能力・技能を身につける。

4) 心に関する問題解決を行うための意欲や態度を形成する専門科目

3年次の課題演習、3-4年次の課題研究といった研究法科目、および卒業論文で、問題解決への意欲や態度を形成する。

【専門選択科目，自由選択科目】

心理学やその周辺の多様な関連領域に関して自由な学習が行えるよう、他プログラムの科目を習得した場合、一定の限度内で本プログラムの単位として認めている。

(4) 卒業論文（卒業研究）

【プログラム内での位置づけ】

心理学プログラムの到達目標である「心の仕組みや働きに関する知識」に基づき、「人間の心について理解するための方法・技能」を用いて、各自の研究テーマを発見し、研究を実施する。研究を実践する能力・技能および研究に取り組む意欲・態度の形成を目指している。その達成度を総合的に評価する。

【配属方法と配属時期】

●配属時期：6 Semester開始時に卒業論文の指導教員を決定する。

●配属方法：学生は、各教員が指導可能な研究内容等の情報に基づき、卒業論文で実施したい研究内容とともに希望する指導教員を届け出る。学生の希望をできるだけ尊重するが、人数の偏りが大きい場合には、調整を行う。

5. 授業科目及び授業内容

●教養教育科目：心理学A，心理学Bなどの領域科目，パッケージ科目，外国語科目，情報科目など

●専門基礎科目（研究法）：心理学基礎実習Ⅰ・Ⅱ，心理統計法Ⅰ・Ⅱ，心理実験法，心理社会調査法，心理検査法Ⅰ・Ⅱ

（外書講読）：心理学外書講読演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

●専門科目（領域概論）：認知心理学，学習心理学，社会心理学，教育心理学，発達心理学，臨床心理学

（領域特論）：知覚心理学，対人心理学，児童・青年期発達論，乳幼児心理学，心理療法論，生徒・進路指導論，教育相談，精神医学

（研究法演習）：心理学課題演習，認知心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ，学習心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ，社会心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ，教育心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ，発達心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ，臨床心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ

●卒業研究：卒業論文

●専門選択科目，自由選択科目：学生の選択による

※シラバスは，「Myもみじ」又は広島大学公式ウェブサイト「入学案内」を参照してください。

6. 教育・学習

(1) 教育方法・学習方法

心理学プログラムの目標を達成するためには，教職員の努力および学習支援体制の整備が行われているが，学生自身の主体的・積極的な取り組みが必要である。人的資源，物的資源の両方を最大限に活用して，より良い成果を手に入れることを期待する。

(2) 学習支援体制

●5 Semester（3年次前期）までは，主としてチューターが学習を支援する。

●6 Semester（3年次後期）以降は，チューターと卒業論文指導教員が協力して学習を支援する。

●実習を行う授業では，大学院生がTA（ティーチングアシスタント）として参加し，さまざまな疑問や問題に対応する。

●心理学関係の図書や雑誌などに関して，心理学講座の図書室，和・洋雑誌室に整備している他，情報検索や文献・資料収集のためのコンピュータ端末が利用できる。

7. 評価（試験・成績評価）

(1) 到達度チェックの仕組み

●各授業の到達度評価は，別紙4（到達目標評価項目と評価基準の表）の基準で行う。

●科目群ごとの到達度評価は，該当する授業科目の評価を総合して行う。

●プログラム全体としての評価は，個々の授業科目の評価に加え，卒業論文やその発表の内容により総合的に行う。

(2) 成績が示す意味

●各授業の成績は，秀，優，良，可及び不可で判定する。

8. プログラムの責任体制と評価

(1) PDCA責任体制（計画（plan）・実施（do）・評価（check）・改善（action））

●計画，実施，評価検討，および対処は心理学プログラム教員会が行う。責任者は，心理学講座の主任である。

●教育学部の担当組織などによる外部評価を実施する。

●対処については，心理学プログラム教員会のみでなく，教育学部長等も責任をもって対応する。

(2) プログラムの評価

【プログラムの評価の視点】

●学生が一定基準以上の目標を達成しているかどうかを評価する。

●授業科目の配置がプログラム全体として適切であったかどうかを，学生による授業評価と学生の到達度評価により判断する。

●個々の授業内容がプログラム全体の中で適切であったかどうかを，学生による授業評価と学生の到達度評価に

より判断する。

●自由選択科目・専門選択科目の履修状況を把握し、選択科目を設置した目的が達成されているかどうかを評価する。

【評価の実施方法】

●学生による授業評価および学生の到達度評価によって、個々の授業内容を検討する。

※担当教員リストは、別紙5を参照。

プログラムの教育・学習方法

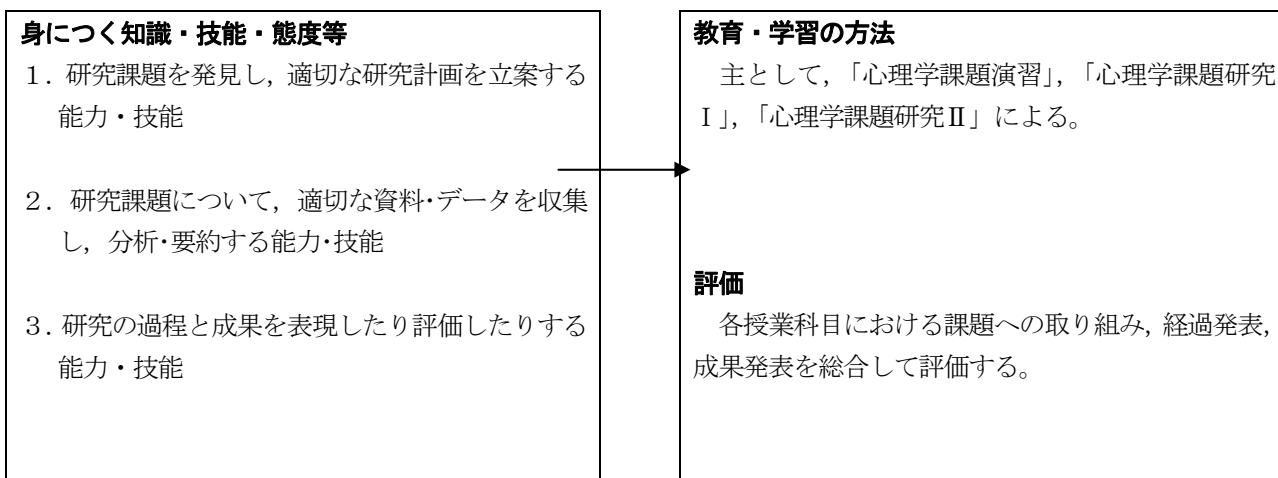
○ 知識・理解

<p>身につく知識・技能・態度等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心の仕組みや働きに関する標準的知識 2. 心の仕組みや働きに関する発展的知識 	→	<p>教育・学習の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主として「認知心理学」などの領域概論科目，教養教育科目，および学生が自主的に選択する他プログラムの専門教育科目による。 2. 主として「知覚心理学」などの領域特論科目による。 <p>評価</p> <p>各授業科目で実施される中間試験，期末試験，レポートなどを総合して評価する。</p>
--	---	--

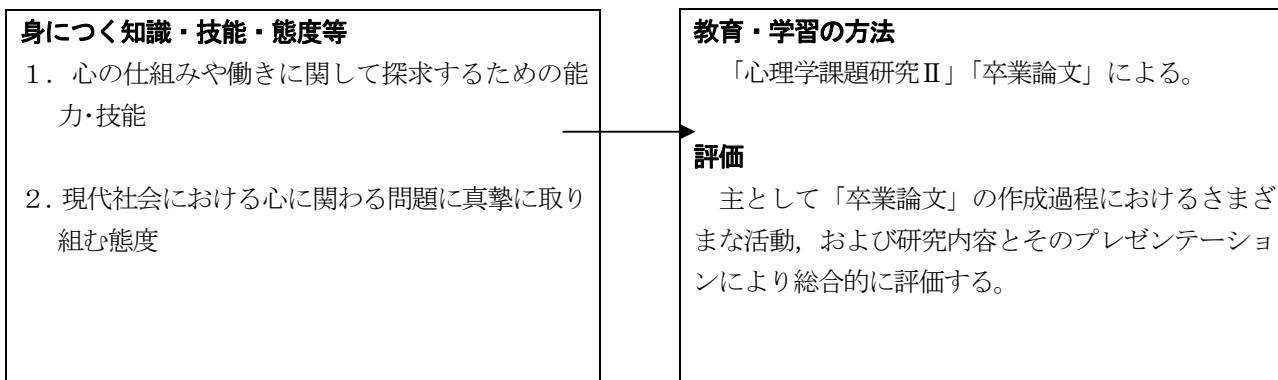
○ 知的能力・技能

<p>身につく知識・技能・態度等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献や資料を理解し，批判的に評価する基本的能力・技能 2. 研究を実施するために必要な基本的能力・技能 	→	<p>教育・学習の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主として「心理学外書講読演習Ⅰ～Ⅳ」，教養教育科目における外国語科目による。 2. 主として研究法科目である「心理学基礎実習Ⅰ・Ⅱ」，「心理統計法Ⅰ・Ⅱ」，「心理実験法」，「心理社会調査法」，「心理検査法Ⅰ・Ⅱ」，および教養教育科目における情報科目による。 <p>評価</p> <p>各授業科目で実施される中間試験，期末試験，レポート，プレゼンテーションなどを総合して評価する。</p>
---	---	---

○ 実践的能力・技能



○ 総合的能力・技能



別紙2 主専攻プログラム モデル体系図

(専門教育における) 学習の成果		教養教育 到達目標	1年		2年		3年		4年	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	(1)心の仕組みや働きに関する標準的知識を身につける	人類や社会が抱える歴史的・現代的課題(社会のしきと科学の在り方、知の富みの意味、いのちの重み、多様な文化間の交流や対立、自然と共生する意義など)について、多角的な視点から説明できる。各学問領域について、その形成過程・発展過程を説明できる。	パッケージ別科目(○) 心理学A(◎) 領域科目(○)	パッケージ別科目(○) 心理学B(◎) 領域科目(○)	学習心理学(○) 社会心理学(○) 臨床心理学(○)	認知心理学(○) 教育心理学(○) 発達心理学(○)				
	(2)心の仕組みや働きに関する発展的・応用的知識を身につける	特定の学際的・総合的なトピック又は研究の最前線や社会問題のトピックについて、複数の視点から説明できる。各学問領域が文化・社会とどのように関わっているのかについて、説明できる。	領域科目(○)	領域科目(○) 心と行動の科学(△)	総合科目(○)	総合科目(○) 生徒・進路指導論(○)	児童・青年期発達論(○) 心理療法論(○) 乳幼児心理学(○)	知覚心理学(○) 対人心理学(○) 教育相談(○) 精神医学(○)		
		多角的な視点から平和について考え、自分の意見を述べるができる。理念と現実の葛藤を含め、平和を妨げる種々の要因とそこでの複雑な様相について理解し、説明できる。	平和科目(○)							
知的能力・技能	(1)文献や資料を理解し、批判的に評価する能力・技能を身につける	基本的な方法で資料を収集できる。外国語を活用して、口語や文書で日常的なコミュニケーションを図ることができる。複数の外国語を活用することで、多くの言語や文化を理解できる。	英語(○) 初修外国語(○) 教養ゼミ(◎)	英語(○) 初修外国語(○)	英語(○) 心理学外書購読演習Ⅰ(○) 心理学外書購読演習Ⅱ(○)	心理学外書購読演習Ⅲ(○) 心理学外書購読演習Ⅳ(○)				
	(2)研究を実施するために必要な能力・技能を身につける	特定の事象から課題を発見し、説明できる。論拠を明らかにした議論や効果的なプレゼンテーションを行うことができる。情報を活用するためのモラルと社会的課題について理解し、説明できる。情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の処理や発信を適切に行うことができる。	心理学基礎実習Ⅰ(◎) 教養ゼミ(◎) 情報科目(○)	心理学基礎実習Ⅱ(◎)	心理統計法Ⅰ(◎) 心理実験法(○)	心理統計法Ⅱ(◎) 心理社会調査法(○) 心理検査法Ⅰ(○) 心理検査法Ⅱ(○)				
		体力・健康づくりの必要性を科学的に説明できる。スポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ意義や、マナー・協調性などの重要性を理解し、説明できる。	健康スポーツ科目(○)							
実践的能力・技能	(1)研究課題を発見し、適切な研究計画を立案する能力・技能を身につける						心理学課題演習(◎)	課題研究Ⅰ(○)	課題研究Ⅱ(○)	卒業論文(◎)
	(2)研究課題について、適切な資料・データを収集し、分析・要約する能力・技能を身につける						心理学課題演習(◎)	課題研究Ⅰ(○)	課題研究Ⅱ(○)	卒業論文(◎)
総合的能力・技能	(3)研究の過程と成果を表現したり評価したりする能力・技能を身につける						心理学課題演習(◎)	課題研究Ⅰ(○)	課題研究Ⅱ(○)	卒業論文(◎)
	(1)心の仕組みや働きに関して探求するための能力・技能を身につける							課題研究Ⅰ(○)	課題研究Ⅱ(○)	卒業論文(◎)
	(2)現代社会における心に関わる問題に真摯に取り組む態度を身につける							課題研究Ⅰ(○)	課題研究Ⅱ(○)	卒業論文(◎)
			教養科目	専門基礎	専門科目	卒業論文	(◎)必修科目	(○)選択必修科目	(△)選択科目	

教 養 教 育 科 目 履 修 基 準 表

第五類 心理学系コース（心理学プログラム）

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修セメスター(注1)													
						1年次		2年次		3年次		4年次							
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ						
教養教育科目	教養コア科目	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○												
		平和科目	2		2	選択必修	○	○											
		パッケージ別科目	6	決定された1パッケージから3科目	2	選択必修	○	○											
		総合科目	2		2	選択必修			○	○									
	共通科目	外国語科目	英語(注2)	2	コミュニケーション基礎 I	1	必修	○											
					コミュニケーション基礎 II	1			○										
			コミュニケーション I (注3)	4	コミュニケーション I A	1	選択必修	○											
					コミュニケーション I B	1		○											
			コミュニケーション II (注3)	コミュニケーション II A	1			○											
				コミュニケーション II B	1			○											
		コミュニケーション III	2	コミュニケーション III A	1	選択必修													
				コミュニケーション III B	1				○	○									
				コミュニケーション III C	1														
		上記4科目から2科目以上																	
		初修外国語 (ドイツ語, フランス語, スペイン語, ロシア語, 中国語, 韓国語, アラビア語のうちから1言語選択)	4	ベーシック外国語 I から2科目	1	選択必修	○												
				ベーシック外国語 II から2科目	1			○											
情報科目	2	(注4)	2	選択必修	○														
領域科目	4	心理学A(注5)	2	必修	○														
		心理学B(注5)	2			○													
(14)	すべての領域から(注6)	1又は2	選択必修	○	○	○	○												
健康スポーツ科目	2		1又は2	選択必修	○	○													
基盤科目	(0)		1~3	自由選択	○	○	○	○											
計	46																		

注1： ○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2： 短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3： 時間割編成の都合上、1セメスターは「コミュニケーション I A」及び「コミュニケーション I B」が、2セメスターは「コミュニケーション II A」及び「コミュニケーション II B」が指定されている。

注4： 1セメスター開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合は、2セメスター開設の「情報活用演習」を履修することができる。

注5： 時間割編成の都合上、1セメスターは「心理学A」が、2セメスターは「心理学B」が指定されている。

注6： ・「心と行動の科学」の履修を要望する。

・教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」2単位を修得する必要がある。

・修得した基盤科目の単位を算入することができる。

学部履修基準

第五類（人間形成基礎系）

○心理学系コース（心理学プログラム）

科目区分等		要修得単位数		開設学部		
教養教育	教養コア科目	教養ゼミ	2	46	総合科学部ほか	
		平和科目	2			
		パッケージ別科目	6			
		総合科目	2			
	共通科目	外国語科目	英語			8
			初修外国語			4
		情報科目	2			
		領域科目	(18)			
		健康スポーツ科目	2			
基盤科目	(0)					
専門教育	専門基礎科目	18	82	教育学部ほか		
	専門科目	25				
	専門選択科目	25				
	卒業論文	6				
自由選択科目	8					
合計		128				

専門教育科目履修基準

第五類 心理学系コース (心理学プログラム)

履 修 内 容		要 修 得 単 位 数		開 設	
専門基礎科目	研究法	心理学基礎実習Ⅰ	2	18	心理学系コース
		心理学基礎実習Ⅱ	2		
		心理統計法Ⅰ	2		
		心理統計法Ⅱ	2		
		選択科目	6		
外書講読		4			
専門科目	領域概論		10	25	
	領域特論		12		
	研究法演習	心理学課題演習	2		
		選択科目	1		
専門選択科目		25	教育学部ほか		
卒業論文		6	心理学系コース		
自由選択科目		8	教育学部ほか		

<履修上の注意>

『専門選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、25単位まで認める。

第五類 心理学系コース（心理学プログラム）

○印は必修

区分	授業科目	開単 位 設 数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
専門 基 礎 科 目	研 究 法	心理学基礎実習 I	②	4								「哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学」	
		心理学基礎実習 II	②		4							〃	
		心理統計法 I	②			2						〃	
		心理統計法 II	②				2					〃	
		心理実験法	2			2						〃	
		心理社会調査法	2				2					「社会学, 経済学 (国際経済を含む。)」	
		心理検査法 I	2				2					「哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学」	
	心理検査法 II	2					2				〃		
	外 書 講 読	心理学外書講読演習 I	2			2						〃	
		心理学外書講読演習 II	2			2						〃	
		心理学外書講読演習 III	2				2					〃	
		心理学外書講読演習 IV	2				2					〃	
専 門 科 目	領 域 概 論	認知心理学	2				2					〃	
		学習心理学	2			2						幼児, 児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
		社会心理学	2			2						「社会学, 経済学 (国際経済を含む。)」	
		教育心理学	2				2					幼児, 児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
		発達心理学	2				2					〃	
		臨床心理学	2			2						「哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学」	
	領 域 特 論	知覚心理学	2						2			〃	
		対人心理学	2						2			〃	
		児童・青年期発達論	2					2				幼児, 児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
		乳幼児心理学	2					2				〃	
		心理療法論	2					2				「哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学」	
		生徒・進路指導論	2				2					生徒指導の理論及び方法, 進路指導の理論及び方法	
		教育相談	2						2			教育相談	
		精神医学	2						2				

○印は必修

区分	授業科目	開単 位 設 数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考		
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ				
専 門 科 目	心理学課題演習	②					4					「哲学, 倫理学, 宗教学, 心理学」		
	認知心理学課題研究Ⅰ	1						2				〃		
	学習心理学課題研究Ⅰ	1						2				〃		
	社会心理学課題研究Ⅰ	1						2				〃		
	教育心理学課題研究Ⅰ	1						2				〃		
	発達心理学課題研究Ⅰ	1						2				〃		
	臨床心理学課題研究Ⅰ	1						2				〃		
	認知心理学課題研究Ⅱ	1								2			〃	
	学習心理学課題研究Ⅱ	1								2			〃	
	社会心理学課題研究Ⅱ	1								2			〃	
	教育心理学課題研究Ⅱ	1								2			〃	
	発達心理学課題研究Ⅱ	1								2			〃	
臨床心理学課題研究Ⅱ	1								2			〃		
専 門 選択科目	本コース, 本学部他コース, 特別科目及び他学部等が開 設する専門教育科目 (副専 攻プログラム及び特定プロ グラムを含む。)													
卒業研究	卒業論文	⑥												
自由選択 科目	教養教育の領域科目, 基盤 科目及び専門教育科目													

到達目標評価項目と評価基準の表

○ 知識・理解

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
1. 心の仕組みや働きに関する標準的知識を身につける	認知心理学, 学習心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学, 臨床心理学の各領域に関する標準的知識とそれらが得られた方法を理解しており, それらを活用して問題解決的思考ができる。	認知心理学, 学習心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学, 臨床心理学の各領域に関する標準的知識とそれらが得られた方法を理解している。	認知心理学, 学習心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学, 臨床心理学の各領域の標準的知識が身につけている。	別表のとおり
2. 心の仕組みや働きに関する発展的知識を身につける	認知心理学, 学習心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学, 臨床心理学の各領域に関する発展的知識とそれらが得られた方法を理解しており, それらを活用して問題解決的思考ができる。	認知心理学, 学習心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学, 臨床心理学の各領域に関する発展的知識とそれらが得られた方法を理解している。	認知心理学, 学習心理学, 社会心理学, 教育心理学, 発達心理学, 臨床心理学の各領域の発展的知識が身につけている。	別表のとおり

○ 知的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
1. 文献や資料を理解し, 批判的に評価する基本的能力・技能を身につける	文献や資料の内容を正確に理解し, 問題点とその解決方法を指摘することができる。	文献や資料の内容を正確に理解し, 問題点を指摘することができる。	文献や資料の内容を正確に理解することができる。	別表のとおり
2. 研究を実施するために必要な基本的能力・技能を身につける	心理学的研究方法としての統計法, 実験法, 調査法, 検査法を体験的に学習し, 身につけた基本的技能を新しい課題に適用することができる。	心理学的研究方法としての統計法, 実験法, 調査法, 検査法を体験的に学習し, 基本的技能を身につけている。	心理学的研究方法としての統計法, 実験法, 調査法, 検査法における基本的技能を体験的に学習している。	別表のとおり

○ 実践的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セマター
1. 研究課題を発見し、適切な研究計画を立案する能力・技能を身につける	独力で、適切な研究計画を立案することができる。	指導教員等による多少の援助があれば、適切な研究計画を立案することができる。	指導教員等の援助によって、適切な研究計画を立案することができる。	別表のとおり
2. 研究課題について適切な資料・データを収集し、分析・要約する能力・技能を身につける	実験法、調査法、検査法といった心理学的研究法にもとづいて研究を独力で適切に実施し、収集した資料に記述統計、推測統計の基本的手法を独力で正しく適用することができる。	指導教員等による多少の援助があれば、実験法、調査法、検査法といった心理学的研究法にもとづいて研究を実施し、収集した資料に記述統計、推測統計の基本的手法を正しく適用することができる。	指導教員等の援助によって、実験法、調査法、検査法といった心理学的研究法にもとづいて研究を実施し、収集した資料に記述統計、推測統計の基本的手法を正しく適用することができる。	別表のとおり
3. 研究の過程と成果を表現したり評価したりする能力・技能を身につける	自分が実施した研究の過程と成果を、口頭および論文で的確に、かつ魅力的に公表でき、自分や他者の発表を批判的に評価し、改善方法を指摘することができる。	自分が実施した研究の過程と成果を、口頭および論文で的確に公表し、自分や他者の発表を批判的に評価することができる。	自分が実施した研究の過程と成果を、口頭および論文で公表し、自分や他者の発表を評価することができる。	別表のとおり

○ 総合的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セマター
1. 心の仕組みや働きに関して探求するための能力・技能を身につける	研究計画の立案から成果発表まで、独力で実施できる総合的能力・技能が身につけている。	指導教員等による多少の援助があれば、研究計画の立案から成果発表まで実施できる総合的能力・技能が身につけている。	指導教員等の援助によって、研究計画の立案から成果発表まで実施できる総合的能力・技能が身につけている。	別表のとおり
2. 現代社会における心に関わる問題に真摯に取り組む態度を身につける	心に関連したさまざまな問題の解決が求められている現代社会において、それらの問題に真摯に取り組む意欲・態度が形成されており、どのような行動をとるべきかを理解している。	心に関連したさまざまな問題の解決が求められている現代社会において、それらの問題に真摯に取り組む意欲・態度が形成されており、どのような行動をとるべきかを考えている。	心に関連したさまざまな問題の解決が求められている現代社会において、それらの問題に真摯に取り組む意欲・態度が形成されている。	別表のとおり

担当教員名	学部担当授業科目等	備考
岡本 祐子	担当授業科目：臨床心理学 臨床心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟704	
兒玉 憲一	担当授業科目：心理療法論 臨床心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟810	
杉村 和美	授業担当科目：発達心理学 児童・青年期発達論 発達心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟812	
杉村 伸一郎	担当授業科目：発達心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部B棟712	
中條 和光	担当授業科目：学習心理学 生徒・進路指導論（特別科目） 心理学課題演習（共同） 学習心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟813	
宮谷 真人	担当授業科目：認知心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟814	
森永 康子	担当授業科目：社会心理学 対人心理学 社会心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟709	
湯澤 正通	担当授業科目：教育心理学 児童・青年期発達論 心理学課題演習（共同） 教育心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟702	

担当教員名	学部担当授業科目等	
石田 弓	担当授業科目：教育相談（特別科目） 心理検査法Ⅱ（共同） 臨床心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟703	
大塚 泰正	担当授業科目：心理検査法Ⅰ（共同） 臨床心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟809	
中尾 敬	担当授業科目：教養ゼミ 認知心理学 心理統計法Ⅰ・Ⅱ 心理学課題演習（共同） 認知心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟815	
森田 愛子	担当授業科目：心理学基礎実習Ⅰ・Ⅱ（共同） 心理実験法 心理学課題演習（共同） 生徒・進路指導論（特別科目） 教育心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟705	
尾形 明子	担当授業科目：心理検査法Ⅰ（共同） 心理検査法Ⅱ（共同） 教育相談（特別科目） 臨床心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部A棟711	
清水 寿代	担当授業科目：乳幼児心理学 発達心理学課題研究Ⅰ・Ⅱ 卒業論文 研究室の場所：教育学部B棟711	

担当教員名	学部担当授業科目等	備考
荒井 佐和子	担当授業科目：心理学基礎実習Ⅱ（共同） 心理学外書講読演習Ⅱ 研究室の場所：教育学部A棟805	
蔵永 瞳	担当授業科目：心理学基礎実習Ⅰ（共同） 心理学外書講読演習Ⅳ 心理学課題演習（共同） 研究室の場所：教育学部A棟811	
淡野 将太	担当授業科目：心理学基礎実習Ⅰ（共同） 心理学外書講読演習Ⅲ 研究室の場所：教育学部A棟710	
深瀬 裕子	担当授業科目：心理学基礎実習Ⅱ（共同） 心理学外書講読演習Ⅰ 研究室の場所：教育学部A棟811	

担当教員名	学部担当授業科目等	備考
非常勤	担当授業科目：知覚心理学 精神医学	
未定	担当授業科目：心理社会調査法	